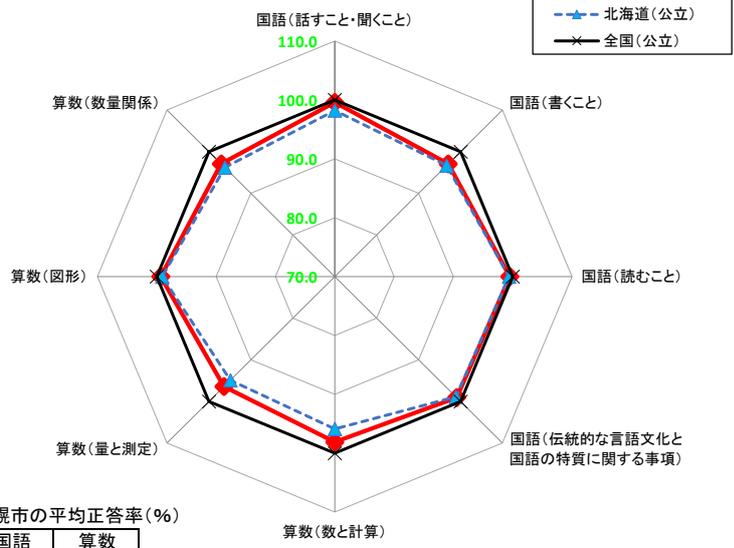


■ 札幌市内小学校の状況及び「学ぶ力」の育成に向けた取組(学校数:200校、児童数:14,485人)

※児童数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

【教科全体の状況】

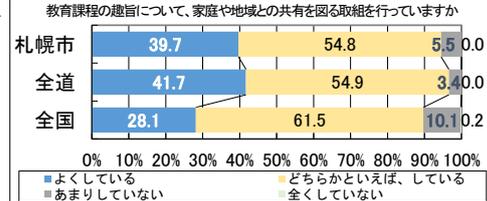
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



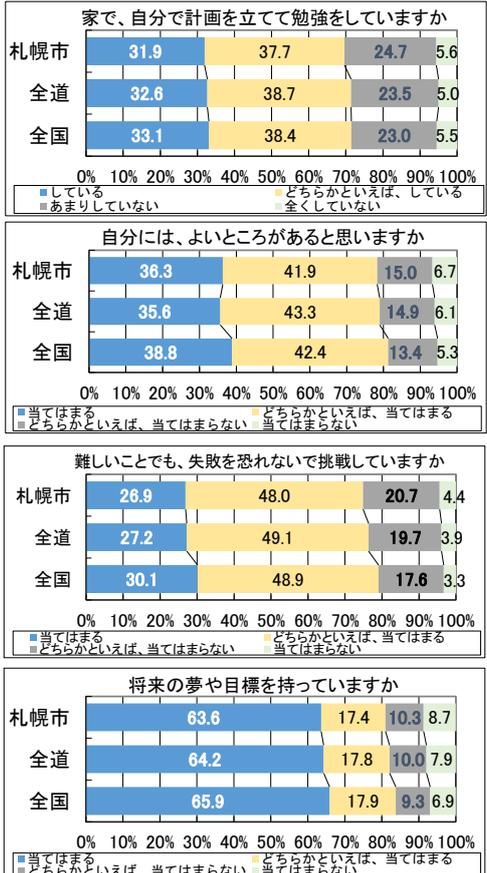
国語	算数
62 (61.8)	65 (65.5)

※上段が文部科学省から提供された値、下段の()内は、札幌市が独自に計算した値。

【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語」の「書くこと」領域において、全国の平均正答率を3.1ポイント以上「下回っている」が、それ以外の教科・領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で「ほぼ同程度」である。 ○ 国語では「目的や意図に応じて、理由や根拠を明確にし、自分の考えをまとめたり表現したりすること」、算数では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」などに課題。 ⇒ 身に付けた知識・技能を活用することについて、小中学校ともに課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～) * 各学校のHPIに掲載 ○ 全市での「課題探究的な学習」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実 ○ 家庭への啓発等の充実～「さっぽろっ子『学び』」のススメの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用 ・ 学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、小学校、中学校ともに全国と比べ低い状況である。また、札幌市では、小学校に比べ中学校の肯定的な回答の割合が23ポイント程度低くなっている。 ○ 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合は、全国と比べ低い状況である。 ○ 自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、全国と比べ低い状況である。 ○ 将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、小学校、中学校ともに全国と比べ低い状況である。また、札幌市では、小学校に比べ中学校の肯定的な回答の割合が13ポイント程度低くなっている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」という項目において、肯定的な回答の割合が94.5%となっており、全国と比べ高い状況が見られた。 	

【札幌市の「学ぶ力」の育成に向けた取組】

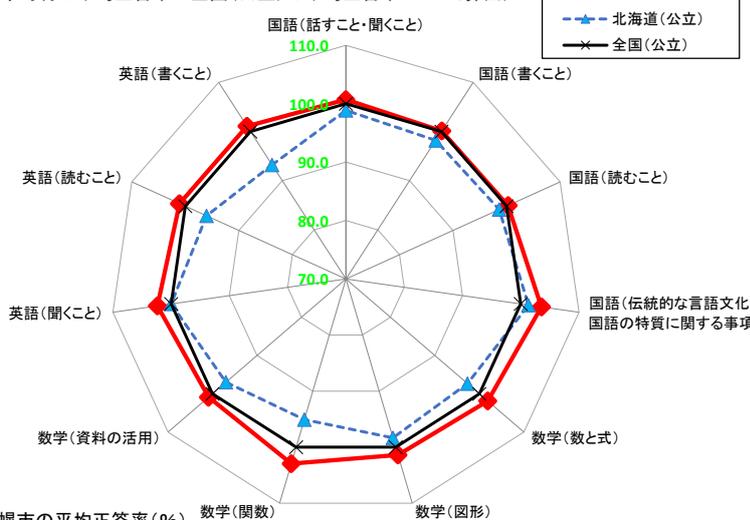
- ◎ 小学校と中学校の教職員が、教育内容や教育方法を共有するとともに、課題探究的な学習を協働的に推進
- ◎ 「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」に基いて各学校が推進している、「学ぶ力」育成プログラムや「さっぽろっ子『学び』のススメ」などを、小・中学校が9年間の見直しをもって活用することで、「学ぶ力」を一層育む

■ 札幌市内中学校の状況及び「学ぶ力」の育成に向けた取組(学校数:99校、生徒数:13,243人)

※生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

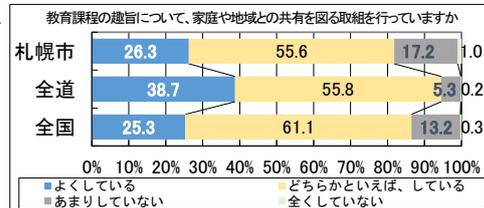
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

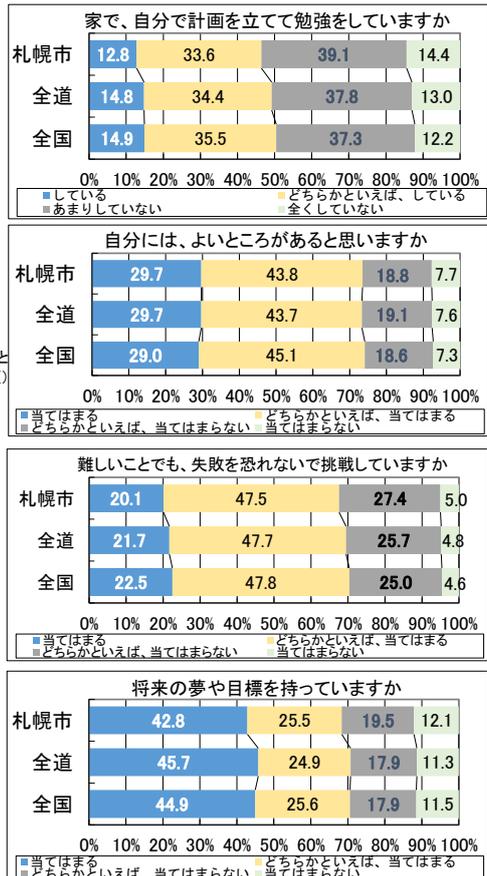


【学校質問紙調査】

※上段が文部科学省から提供された値、下段の()内は、札幌市が独自に計算した値。



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語、数学、英語ともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。 ○ 国語では「目的や意図に応じて、理由や根拠を明確にし、自分の考えをまとめたり表現したりすること」、数学では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」、英語では「聞いたり読んだりして把握した内容に、適切に応じること」などに課題。 ⇒ 身に付けた知識・技能を活用することについて、小中学校ともに課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～)* 各学校のHPIに掲載
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、小学校、中学校ともに全国と比べ低い状況である。また、札幌市では、小学校に比べ中学校の肯定的な回答の割合が23ポイント程度低くなっている。 ○ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している子どもの割合は、全国と比べ低い状況である。 ○ 自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、全国と比べ低い状況である。 ○ 将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、小学校、中学校ともに全国と比べ低い状況である。また、札幌市では、小学校に比べ中学校の肯定的な回答の割合が13ポイント程度低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全市での「課題探究的な学習」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実 ○ 家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用 ・学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」という項目において、肯定的な回答の割合が81.9%となっている。 	

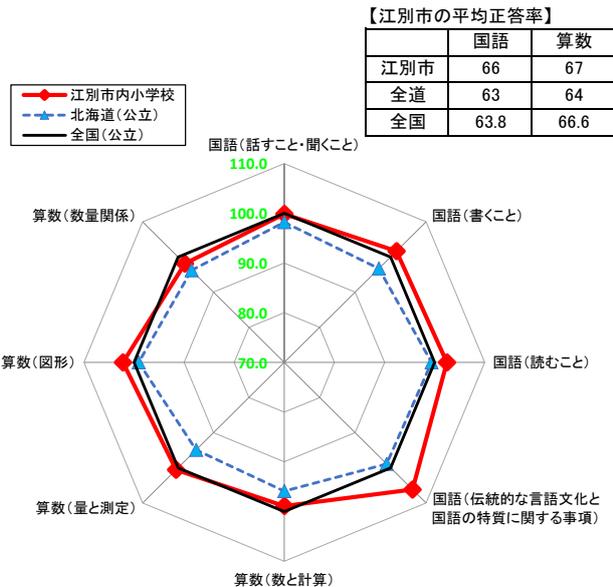
【札幌市の「学ぶ力」の育成に向けた取組】

- ◎ 小学校と中学校の教職員が、教育内容や教育方法を共有するとともに、課題探究的な学習を協働的に推進
- ◎ 「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」に基づいて各学校が推進している、「学ぶ力」育成プログラムや「さっぽろっ子『学び』のススメ」などを、小・中学校が9年間の見直しをもって活用することで、「学ぶ力」を一層育む

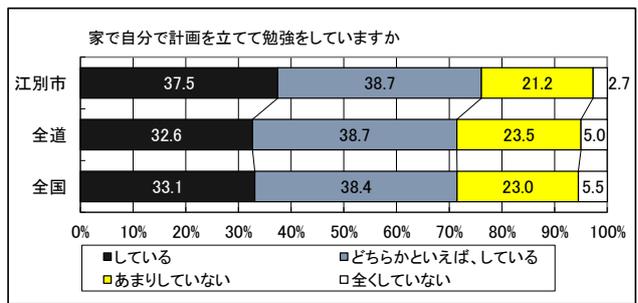
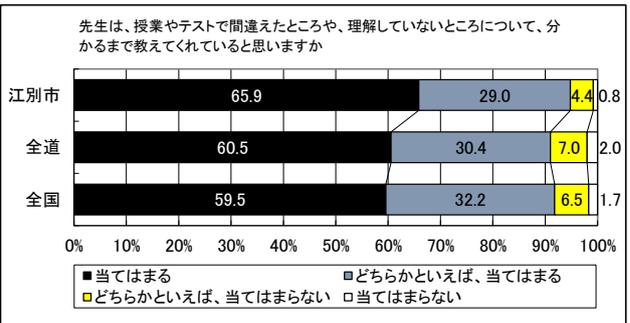
■江別市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:17校、児童数:905人)

【教科全体の状況】

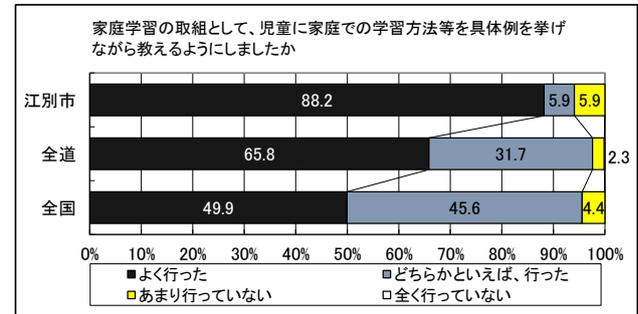
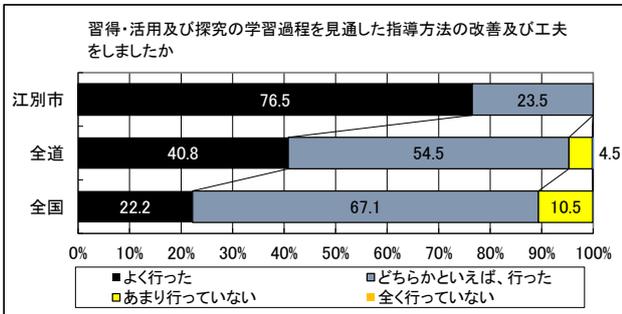
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

項目	分析内容
教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 国語では、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「量と測定」「図形」で全国を上回っている。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

【江別市の学力向上策】

- ◎ T・Tによる指導や放課後・長期休業中の補充的な学習サポートなど、学習支援の充実
- ◎ 全学校・全学級への電子黒板の配置やデジタル教科書の整備など、学校のICT環境の充実
- ◎ 教職員セミナーや小学校外国語活動研修会など、研修事業の実施
- ◎ 学校改善プランについてのヒアリング及び指導助言

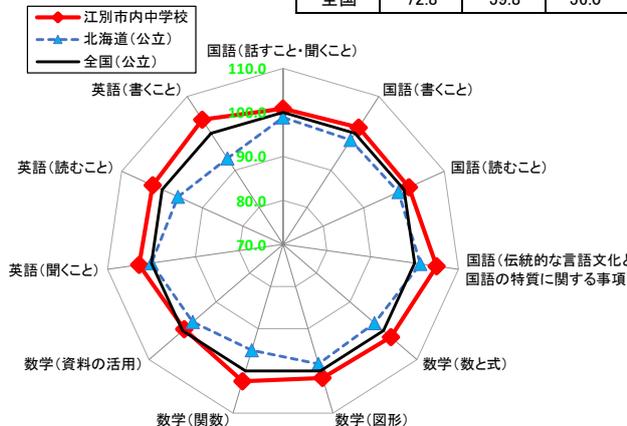
■江別市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、生徒数:903人)

【教科全体の状況】

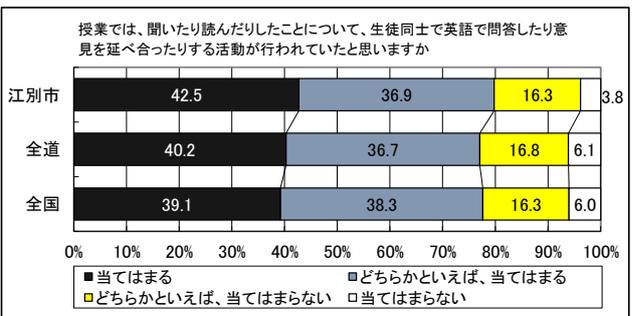
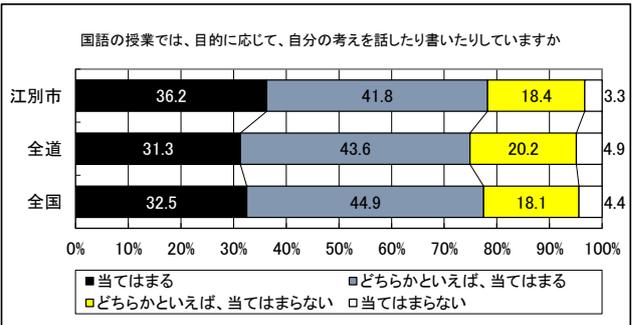
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

【江別市の平均正答率】

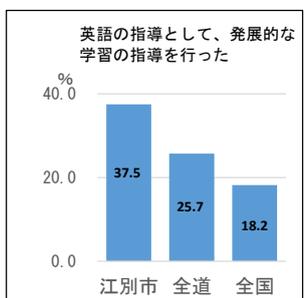
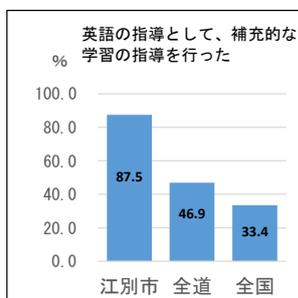
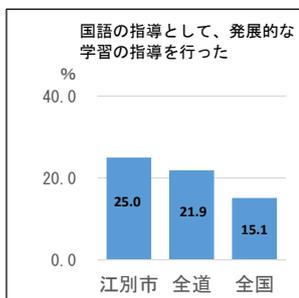
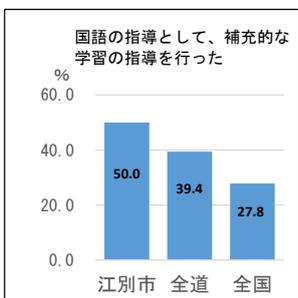
	国語	数学	英語
江別市	74	61	58
全道	72	58	54
全国	72.8	59.8	56.0



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

項目	分析内容
教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」「図形」「関数」で、全国を上回っている。 ○ 英語では、全ての領域で全国を上回っている。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をした」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、補足的・発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語の指導として、補足的・発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

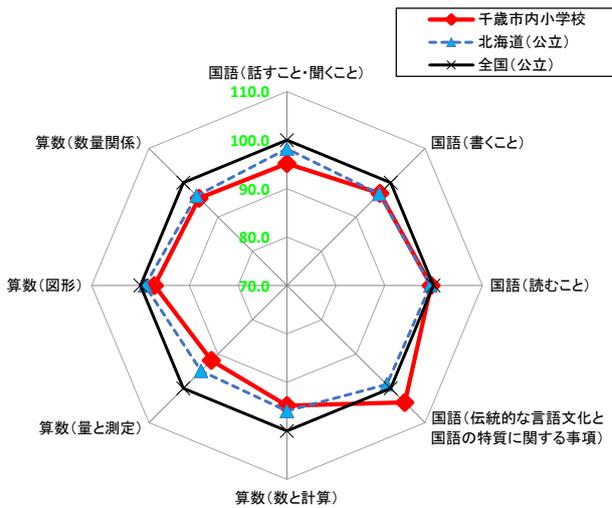
【江別市の学力向上策】

- ◎ T・Tによる指導や放課後・長期休業中の補足的な学習サポートなど、学習支援の充実
- ◎ 全学校・全学級への電子黒板の配置やデジタル教科書の整備など、学校のICT環境の充実
- ◎ 教職員セミナーや小学校外国語活動研修会など、研修事業の実施
- ◎ 学校改善プランについてのヒアリング及び指導助言

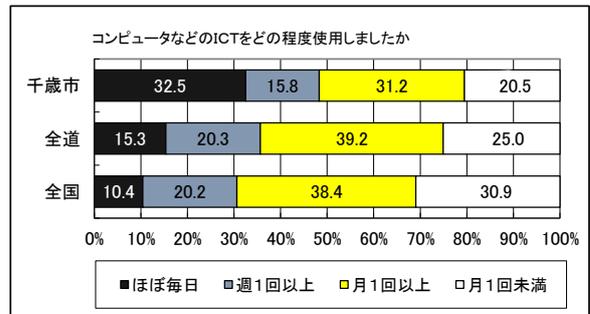
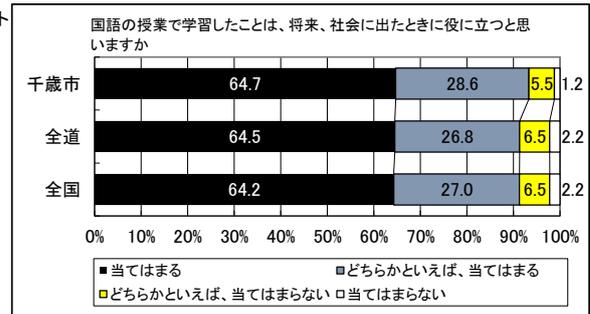
千歳市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:16校、児童数:858人)

【教科全体の状況】

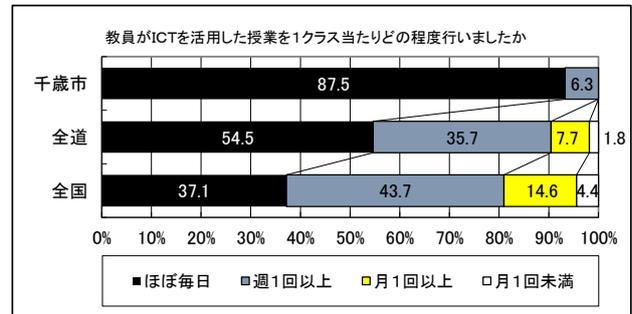
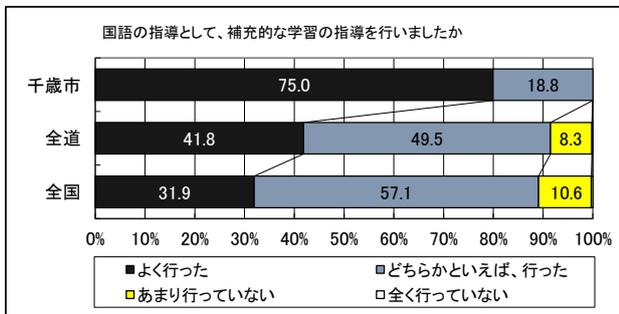
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の指導として、補充的な学習の指導をよく行ったことにより、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「コンピュータなどのICTをほぼ毎日使用した」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員がICTを活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行ったことにより、「コンピュータなどのICTをほぼ毎日使用した」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、補充的な学習の指導をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「教員がICTを活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

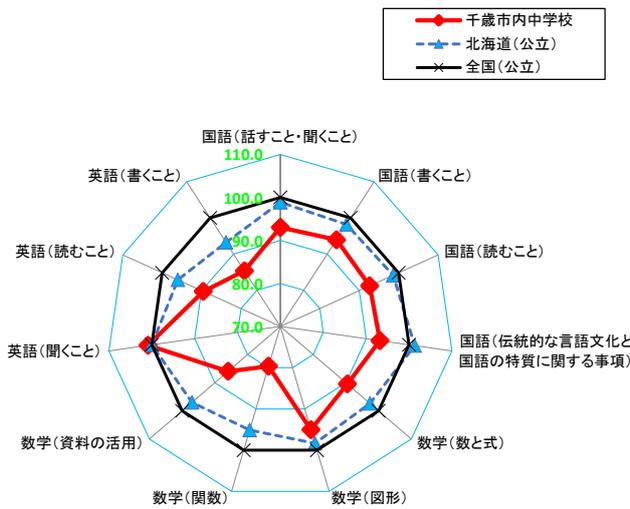
【千歳市の学力向上策】

- ◎ 授業改善に向けたICT機器の効果的な活用
- ◎ 小中連携・一貫教育の推進
- ◎ 学校・家庭・地域の連携の強化による家庭や地域の教育力の向上
- ◎ 習熟度別少人数指導の充実や、学習支援員の配置などによる学習支援体制の強化

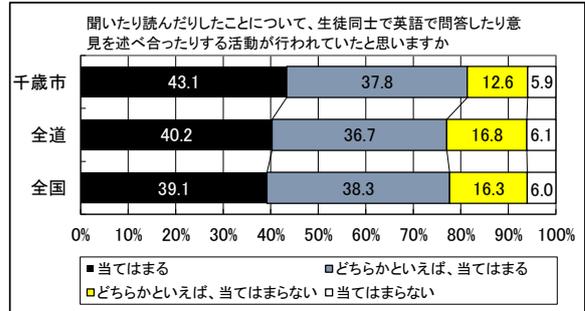
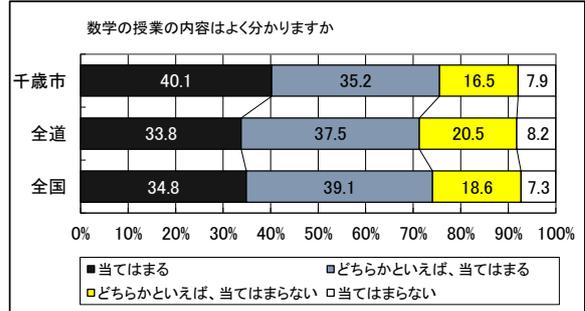
千歳市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、生徒数:803人)

【教科全体の状況】

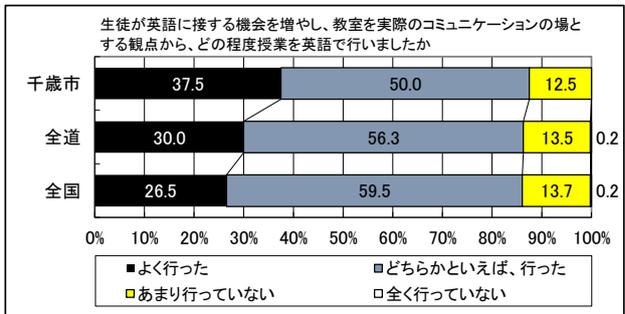
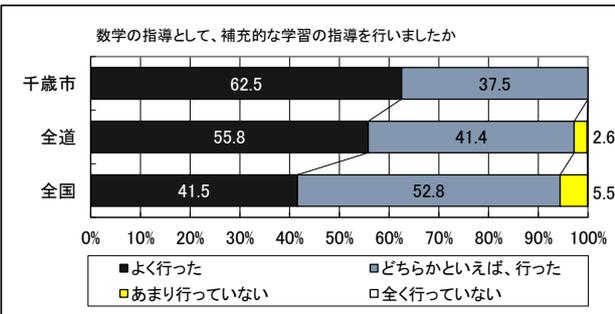
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学では、「図形」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学の指導として、補充的な学習の指導をよく行ったことにより、「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が増え、「図形」で全国に最も近くなったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動を行った」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が英語に接する機会を増やし、英語での授業をよく行ったことにより、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動を行った」と回答した生徒の割合が増え、「聞くこと」で全国を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「数学の指導として、補充的な学習の指導をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「生徒が英語に接する機会を増やし、英語での授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

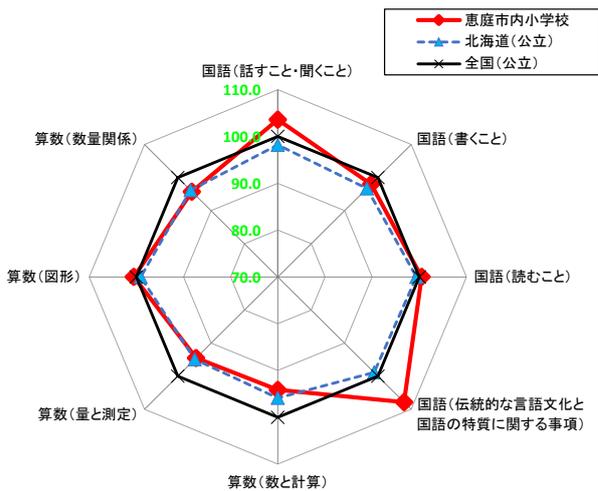
【千歳市の学力向上策】

- ◎ 授業改善に向けたICT機器の効果的な活用
- ◎ 小中連携・一貫教育の推進
- ◎ 学校・家庭・地域の連携の強化による家庭や地域の教育力の向上
- ◎ 習熟度別少人数指導の充実や、学習支援員の配置などによる学習支援体制の強化

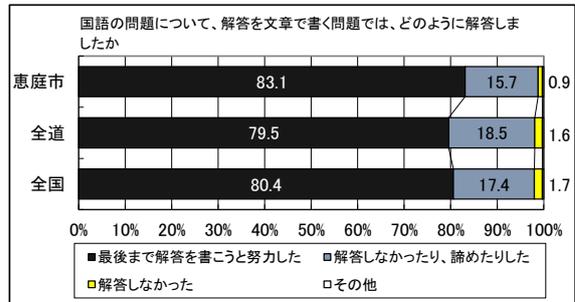
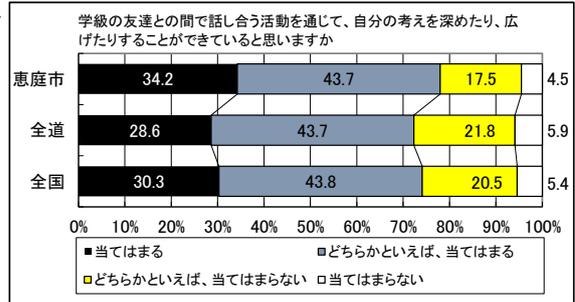
■ 恵庭市内小学校の状況及び学力向上策 (学校数: 8校、児童数: 662人)

【教科全体の状況】

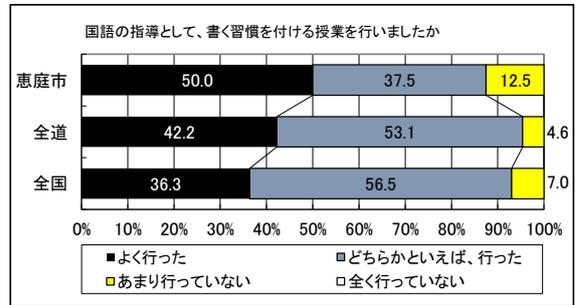
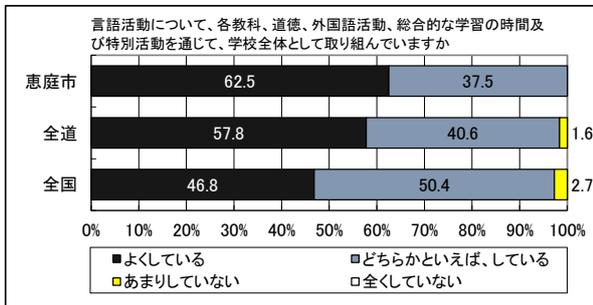
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動について、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。 ○ 国語の指導として、書く習慣を付ける授業をよく行ったことにより、文章で書く問題で、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 国語の問題について、解答を文章で書く問題では、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「言語活動について、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだ」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「国語の指導として、書く習慣を付ける授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

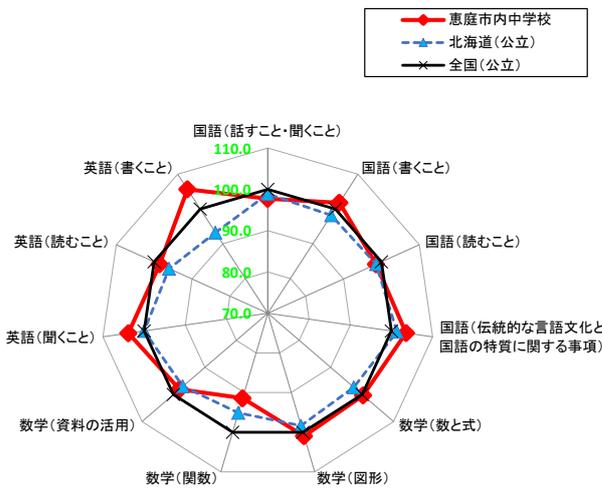
【恵庭市の学力向上策】

- ◎ コミュニティ・スクールの充実
- ◎ 学校指導主事の配置による学校運営の拡充
- ◎ 英語に親しむ授業や体験活動の取組の推進
- ◎ 学習支援員の配置などによる学習支援体制の強化

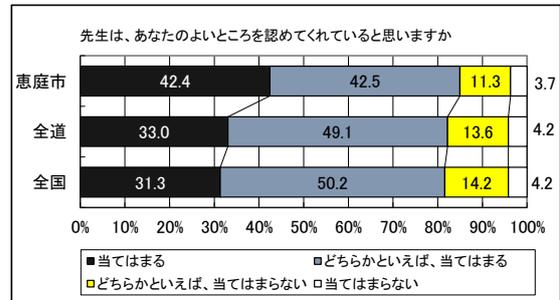
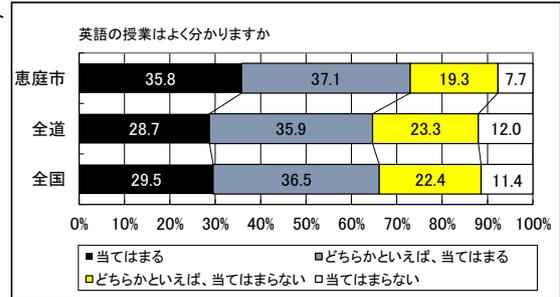
■ 恵庭市内中学校の状況及び学力向上策 (学校数: 5校、生徒数: 593人)

【教科全体の状況】

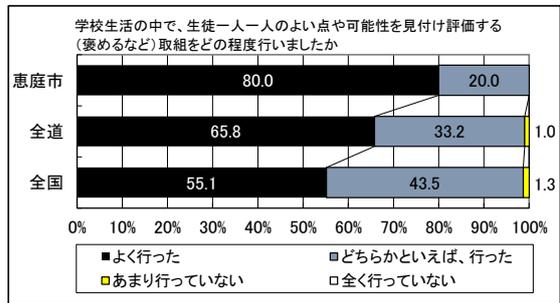
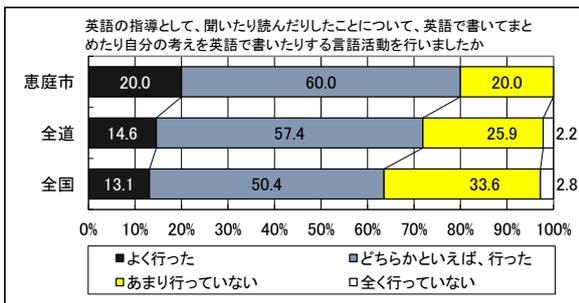
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 数学では、「数と式」「図形」で全国を上回っている。 ○ 英語では、「聞くこと」「書くこと」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語の指導として、聞いたり読んだりしたことについて、英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動をよく行ったことにより、「英語の授業はよく分かる」と回答した生徒の割合が増え、「聞くこと」「書くこと」で全国を上回ったと考えられる。 ○ 生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組をよく行ったことにより、「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「英語の授業はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「英語の指導として、聞いたり読んだりしたことについて、英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

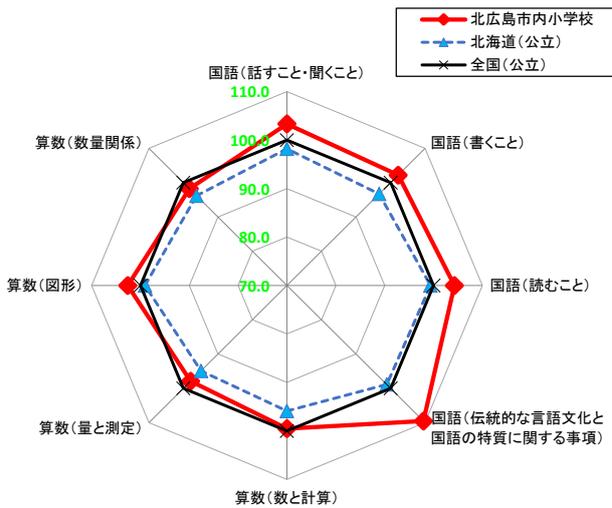
【恵庭市の学力向上策】

- ◎ コミュニティ・スクールの充実
- ◎ 学校指導主事の配置による学校運営の拡充
- ◎ 英語に親しむ授業や体験活動の取組の推進
- ◎ 学習支援員の配置などによる学習支援体制の強化

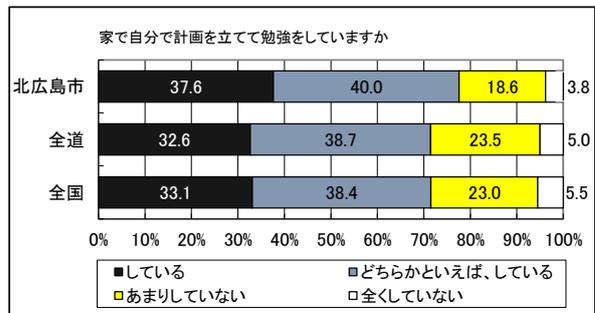
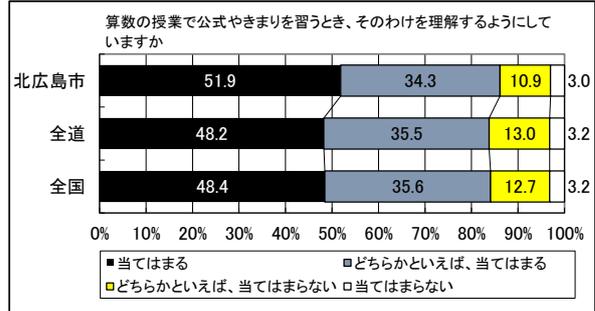
■北広島市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、児童数:505人)

【教科全体の状況】

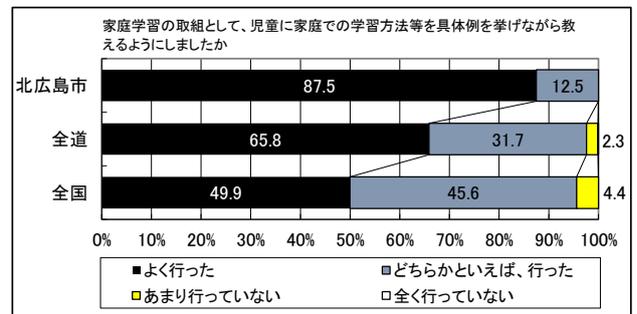
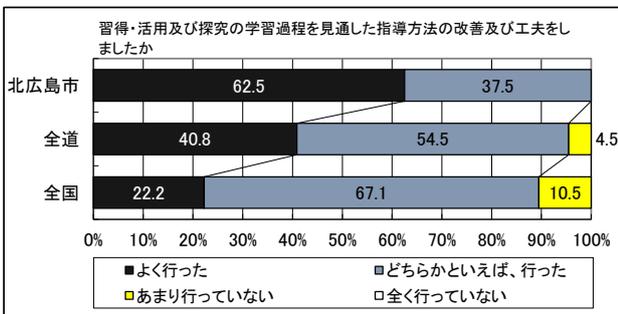
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をよく行ったことにより、国語の全ての領域で全国を上回るとともに、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

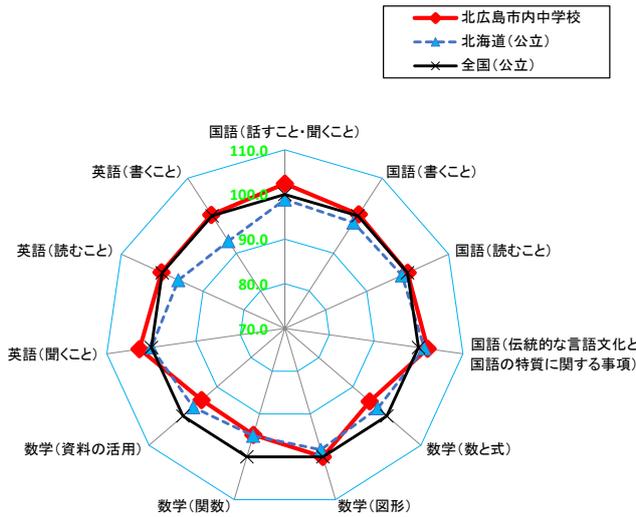
【北広島市の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた、授業改善や個に応じた指導の充実
- ◎ 各中学校区で策定したスタンダードに基づく、小・中学校の連携した学習・生活習慣を確立する取組の充実
- ◎ 市指導主事の指導助言による各学校の課題解決や教育課程の編成・実施の充実
- ◎ 小中一貫教育の深化

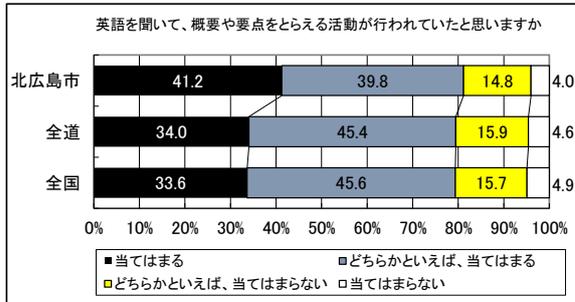
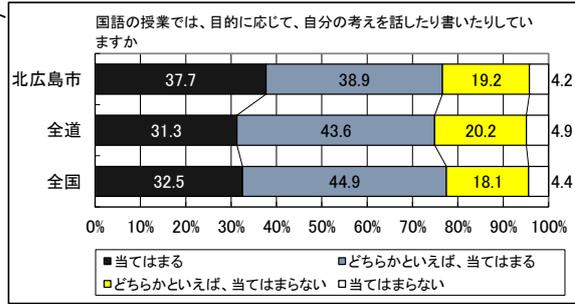
北広島市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:7校、生徒数:520人)

【教科全体の状況】

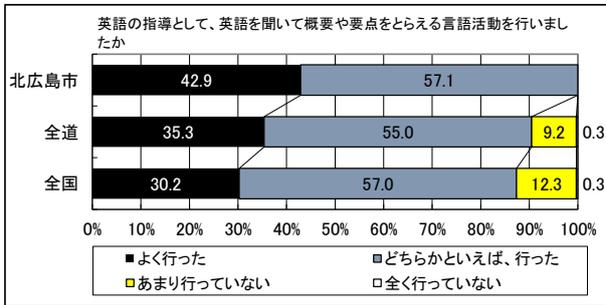
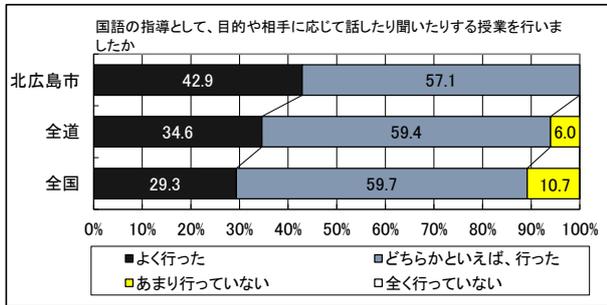
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 英語では、全ての領域で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行ったことにより、「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合が増え、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動を行った」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語の指導として、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動をよく行ったことにより、「英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動を行った」と回答した生徒の割合が増え、英語の全ての領域で全国を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語の指導として、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

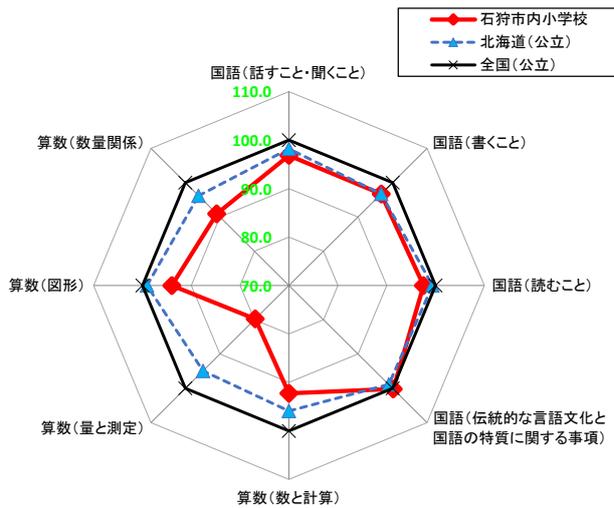
【北広島市の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた、授業改善や個に応じた指導の充実
- ◎ 各中学校区で策定したスタンダードに基づく、小・中学校の連携した学習・生活習慣を確立する取組の充実
- ◎ 市指導主事の指導助言による各学校の課題解決や教育課程の編成・実施の充実
- ◎ 小中一貫教育の深化

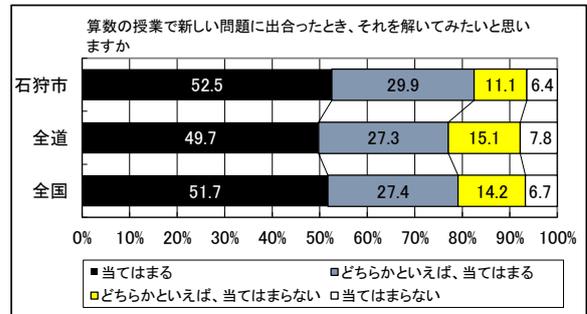
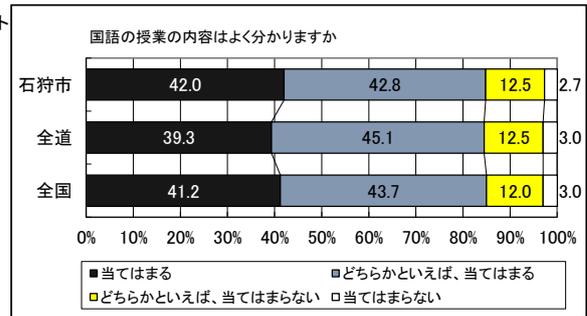
■石狩市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:12校、児童数:512人)

【教科全体の状況】

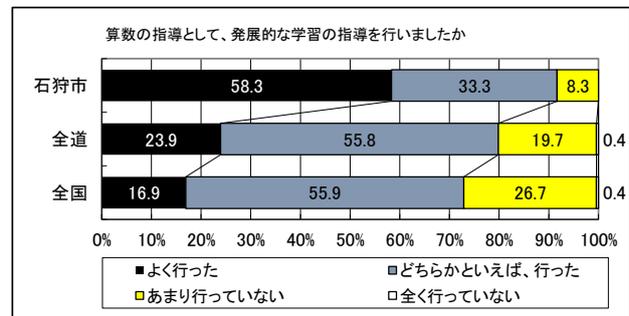
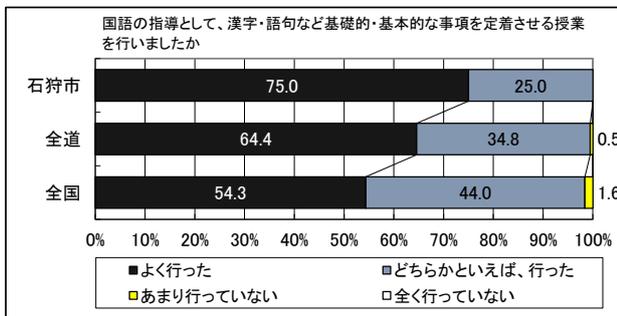
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業をよく行ったことにより、「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合が増え、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数の指導として、発展的な学習の指導をよく行ったことにより、「新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が増え、「図形」で全国に最も近くなったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「算数の指導として、発展的な学習の指導をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

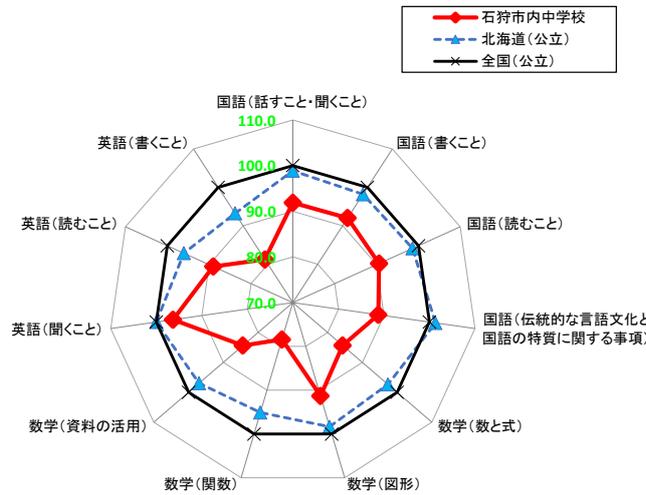
【石狩市の学力向上策】

- ◎ 市内全校への「学校力向上に関する総合実践事業」及び「授業改善等支援事業」の成果の普及
- ◎ 「エキスパート・サポーター」や「学力向上サポーター」を活用した「分かる、できるを実感させる個に応じたきめ細かな支援」の推進
- ◎ 小中連携教育に基づく中学校区の試験期間に合わせた家庭学習強化週間の設定
- ◎ 教職員の資質向上や授業力向上に向けたサマーセミナーや教職8年以下の教員を対象としたウィンターセミナーの実施

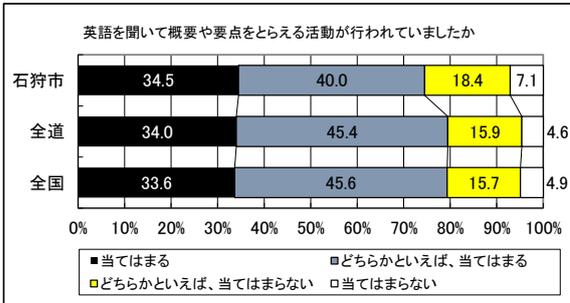
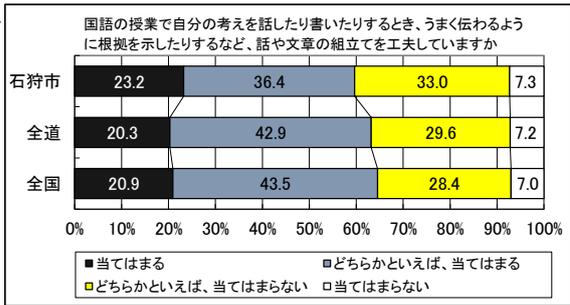
石狩市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、生徒数:556人)

【教科全体の状況】

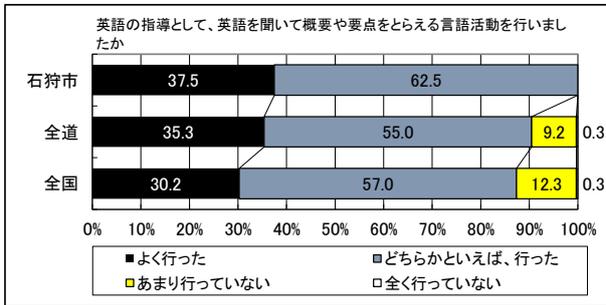
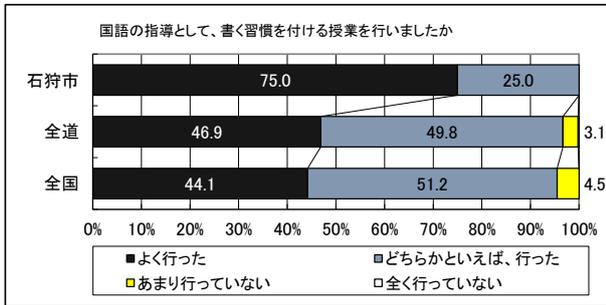
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語では、「書くこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の指導として、書く習慣を付ける授業をよく行ったことにより、「自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と回答した生徒の割合が増え、「書くこと」で全国に最も近くなっている。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動を行った」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語の指導として、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動をよく行ったことにより、「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動を行った」と回答した生徒の割合が増え、「聞くこと」で全国に最も近くなったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の指導として、書く習慣を付ける授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「英語の指導として、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

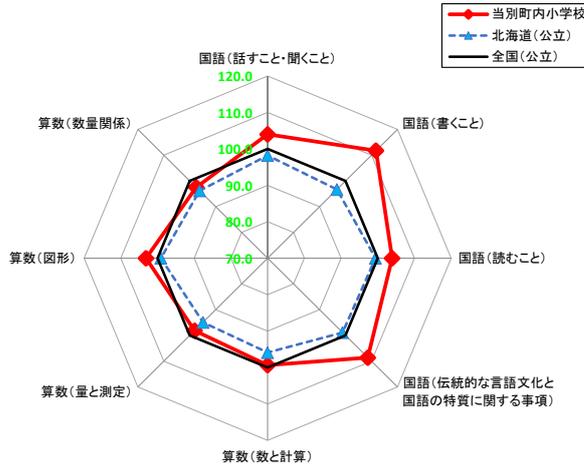
【石狩市の学力向上策】

- ◎ 市内全校への「学校力向上に関する総合実践事業」及び「授業改善等支援事業」の成果の普及
- ◎ 「学力向上サポーター」、「学習支援ボランティア」を活用した「分かる、できるを実感させる個に応じた補充指導」の推進
- ◎ 中学校教員による小学校への出前授業(乗り入れ授業)等、中学校区における「小中連携教育」による家庭学習の積極的な取組
- ◎ 教職員の資質向上や授業力向上に向けたサマーセミナーや教職8年以下の教員を対象としたウインターセミナーの実施

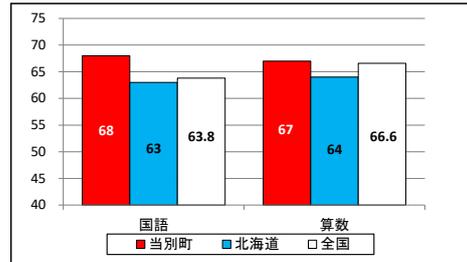
■当別町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、児童数:86人)

【教科全体の状況】

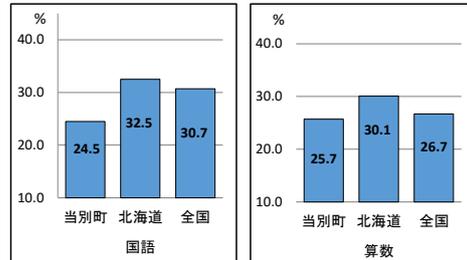
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

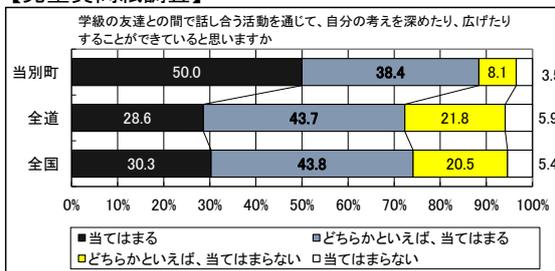


【全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合】

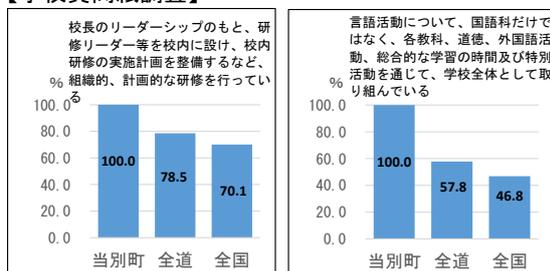


注)全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合を示したグラフ

【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 国語では、全ての領域で全国を上回っている。 ○ 算数では、「図形」で全国を上回っている。 ○ 国語、算数において、全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合が、全国を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育による9年間の連続した教育課程により、基礎学力の定着及び学習規律の徹底が図られた。 ○ 各学校において、組織的、継続的な校内研修を行ったことにより、教員の資質・能力が向上するとともに、授業改善が図られ、全ての教科において全国を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校において、言語活動を国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組むことにより、児童は話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修に取り組んでいる。 ○ 全ての学校が、言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町独自で小中一貫教育推進教師を4名配置し、少人数・習熟度別学習を充実するとともに、道教委指定事業「授業改善推進チーム活用事業」の取組を推進したことにより、授業改善が図られ、児童の学力向上につながったと考えられる。

【当別町の学力向上策】

◎ 教員研修

- ・ 喫緊の教育課題に即応した小・中合同による町教委主催研修の充実 ・ メンターを取り入れた校内研修の一層の拡充
- ・ 小中一貫教育推進に向け、小・中で統一された研究テーマに沿った合同研究・合同研修の実施による教師力の向上

◎ 指導方法の工夫改善

- ・ 習熟度別少人数指導による基礎学力及び発展的学力の定着 ・ 学校改善プランの着実な実践
- ・ 授業改善推進事業を積極的に活用した授業改善の推進
- ・ 小中9年間を見通し、指導内容の連続性や系統性を重視した教育課程の工夫・改善
- ・ 小中一貫教育推進講師(算数・外国語活動)の効果的な活用
- ・ 小中一貫した学習規律の徹底を柱とした安心して学べる学習環境づくりの推進

◎ 児童の自発的学習への支援

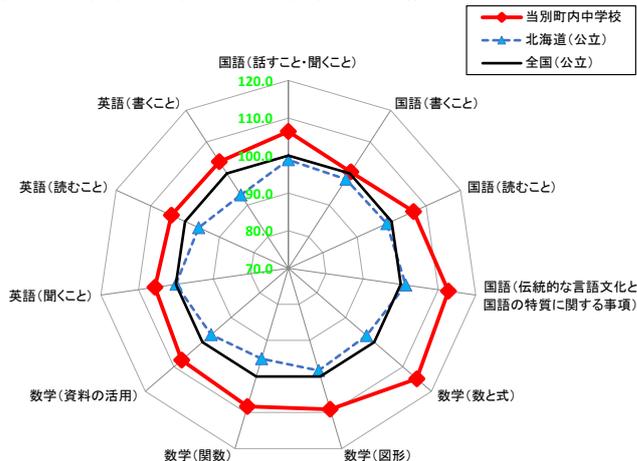
- ・ コミュニティ・スクールとの連携による生活習慣改善に向けた取組の充実

当別町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:112人)

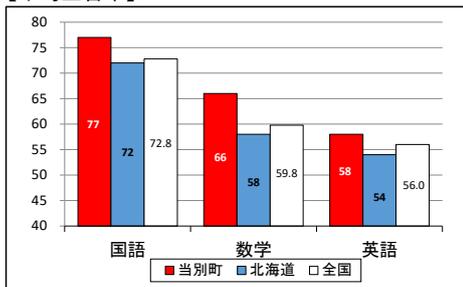
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを

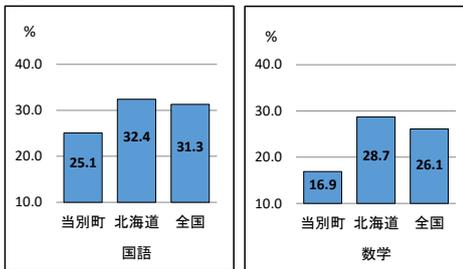
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

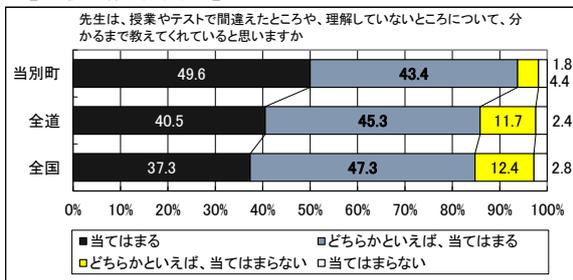


【全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合】

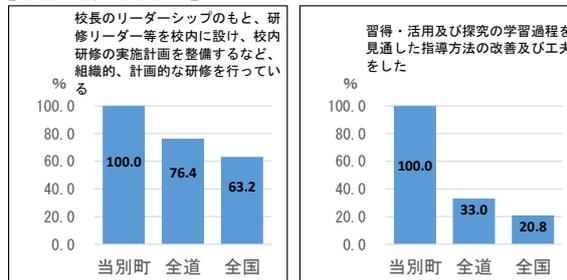


注) 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合を示したグラフ

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての教科において、全国を上回っている。 ○ 全ての教科の全ての領域で、全国を上回っている。 ○ 国語、数学において、全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合が、全国を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育による9年間の連続した教育課程により、基礎学力の定着及び学習規律の徹底が図られた。 ○ 各学校において、組織的、継続的な校内研修を行ったことにより、教員の資質・能力が向上するとともに、授業改善が図られ、全ての教科において全国を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、「授業やテストで間違えたところや、理解できなかったところについて学び直しをしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学校が、校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修に取り組んでいる。 ○ 全ての学校が、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町独自で小中一貫教育推進教師4名、ALT3名を配置し、数学・英語の少人数・習熟度別学習を充実するとともに、道教委指定事業「授業改善推進チーム活用事業」の成果を活用したことにより、授業改善が図られ、生徒の学力向上につながったと考えられる。

【当別町の学力向上策】

- ◎ 教員研修
 - ・ 喫緊の教育課題に即応した小・中合同による町教委主催研修の充実
 - ・ メンターを取り入れた校内研修の一層の拡充
 - ・ 小中一貫教育推進に向け、小・中で統一された研究テーマに沿った合同研究・合同研修の実施による教師力の向上
- ◎ 指導方法の工夫改善
 - ・ 学校改善プランの着実な実践
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ・ 義務教育学校開設を見据えた指導内容の連続性や系統性を重視した教育課程の工夫・改善
- ◎ 生徒の自発的学習への支援
 - ・ 生徒の自発的学習のための環境づくりの推進
 - ・ コミュニティ・スクールとの連携による生活習慣改善に向けた取組の充実